

# こどもたちがより力強く生きる力をつけられるための、瀬戸内町ならではの学び合う環境をつくります

③地域に愛され、安全で持続可能な学校運営を実現するための提案  
⑤その他、独自の提案

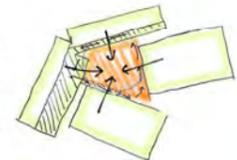
## 01 未来に向かって一緒に学び合い続けたい、瀬戸内町だから経験できる学びの場

年間平均気温が22℃、年間降雨量が2,800mmの瀬戸内町。日本列島の中でも特別な自然環境があるこの地で自然とさまざまなかたちで関われることで、子どもたちの感性を豊かにし創造力のもと多様な活発な活動を促す豊かな場づくりを行います。



## 02 大家族の家のような場所

既存校舎に対して、間を取りながら肩を寄せ合うような建築群を考えます。新旧混合で多様な活動が展開し小学校に通う児童たちから訪れる人まで大家族のような集いの場です。



## 03 奄美大島の伝統的な建築形式を踏襲したつくり

奄美大島の集落では母屋、水屋、高倉など各々の機能に特化した建築物が分散配置される合理的で気候風土に合った建築形式がみられます。本計画では「機能毎の分散配置」を行い「それらを繋ぐ高屋根」を設けることで回遊性があり様々な場所で学びたくなる小学校を計画します。



②児童の移動円滑化を実現するための提案

## 04 周辺環境に調和する、低層で大地に近い建築

すべて敷地東側にまとめて計画します。新校舎は2階建てとし既存校舎と適切な距離をとることで、自然採光と自然通風を確保し快適な環境をつくります。横動線も縦動線もコンパクトで利便性が高く大地に近い小学校です。



山と海がとても近く、太陽と雨の登場の入れ替わりも激しく特別な自然環境があるこの瀬戸内町では、このまちで生活しているみなさんはもちろんのこと、様々ないきもの生命活動が力強く行われていると感じました。私たちはここで暮らすみなさんとともに、この場所だからこそ叶えることができる、世代を超え、みんながたくましく生き続けることができる学び舎を提案します。

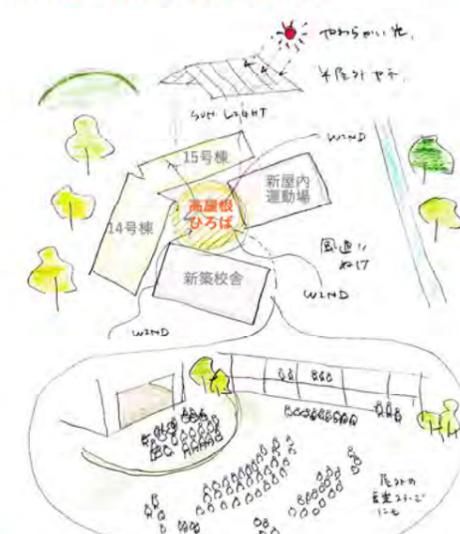
①「新しい時代の学び」を実現するための提案

## 05 晴れの日も雨の日もシマならではの発見と出会いがある“7つのひろば”

子どもたち、先生、地域の皆さんの多様な活動を支える7つのひろばをつくります。それぞれのひろばは、畳や木のフローリングなどの床仕上げ、屋内外のつくり、隣り合う部屋をかえることで個性をつくります。晴れの日も雨の日も自然を感じながら活動が広がる計画を行います。



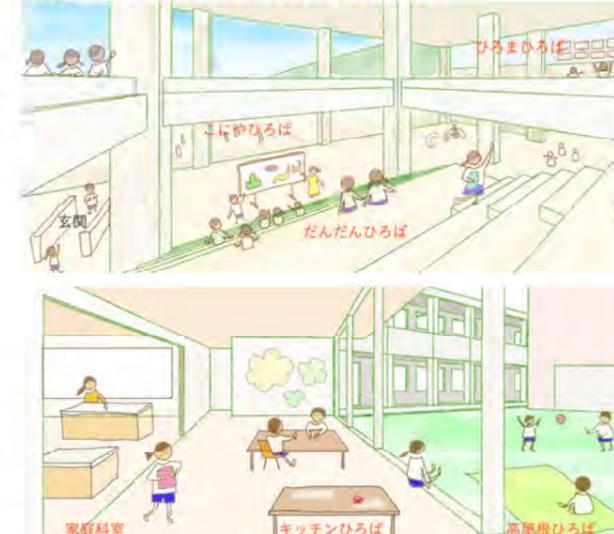
### 集いの中心となる高屋根ひろば



### 回遊性のあるスポーツひろば



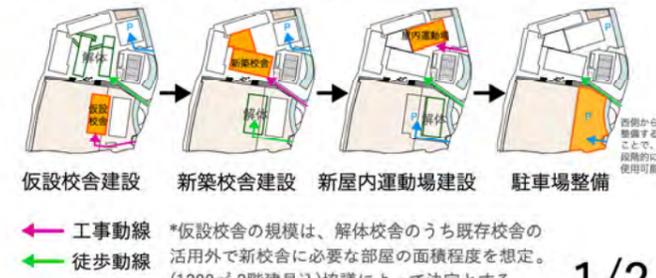
### ひろばでの多様な活動が連続し風景となる



④工事期間中における児童負担の軽減を実現するための提案

## 06 学校の工事が素敵な思い出になるための計画

未来に向けて学びを議論し小学校を建設することは、全てが学びの連続でとても特別な時間です。工事期間中の学校活動や近隣への影響を抑えるために「安心安全な通学路と移動」「十分な仮設校舎\*」「活発に行動できる外の居場所」を計画します。また工事期間中の期間中の見学会やWSなど、つくることを実際に見て参加することでより実感がわく機会をつくりたいと考えています。



技術提案書

子ども、先生、地域の皆さんの学び合いがより活発になるマスタープラン

みんなが歓迎されていると思える学校を目指して

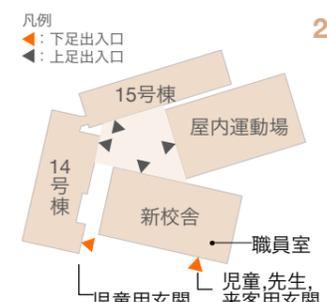
1 地域に開かれ  
地域を支える学校

既存校舎と同じGLに新校舎と屋内運動場をまとめて計画することでみんなが学びの場に参加しやすいバリアフリーな計画です。一体感があり効率がよく日常時も防災時にも使いやすい配置計画です。駐車場とグラウンドの間に植栽帯を設け、児童の安全を守るとともに日陰が心地のよいひろばをつくります。



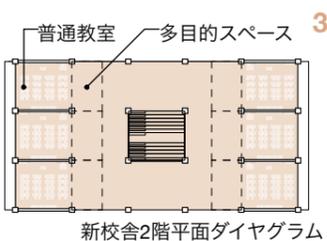
2 安心安全で  
効率がよい動線計画

南西門と新設の駐車場からアクセスのよい建築の南西角に、新校舎の児童及び来客用の玄関と職員室を設けます。職員室からは、グラウンドと南西門への視線が抜けるので、視認性も高く安全安心なつくりです。



3 可変性の高い  
ユニバーサルな空間

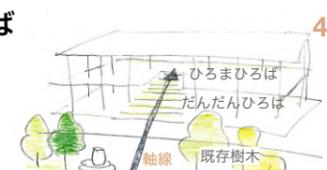
普通教室6室を1つのフロアに計画し大空間をつくります。各教室と多目的スペースは連続していて、将来の用途転用もしやすいユニバーサルな計画です。



築き上げられたものを未来へと繋いでいく計画

4 歴史をつくっていくひろば

敷地内の既存樹木や奉安殿は現状のまま大切に保存し、新校舎の活動の中心の場を軸線上に計画し象徴性を高めます。



5 地域とつながるひろば

多目的室は家庭科室と隣り合わせにすることでキッチンひろばとして活用。高屋根ひろばと繋がり防災時にも役立ちます。音楽室はFL+400の畳仕上げとすることで伝統文化継承活動を行いやすい場として活用します。



柔軟性が高く、学びの場を強く支える建築計画

シマに優しく強く守られる持続的な計画

6 使いたくなる学校

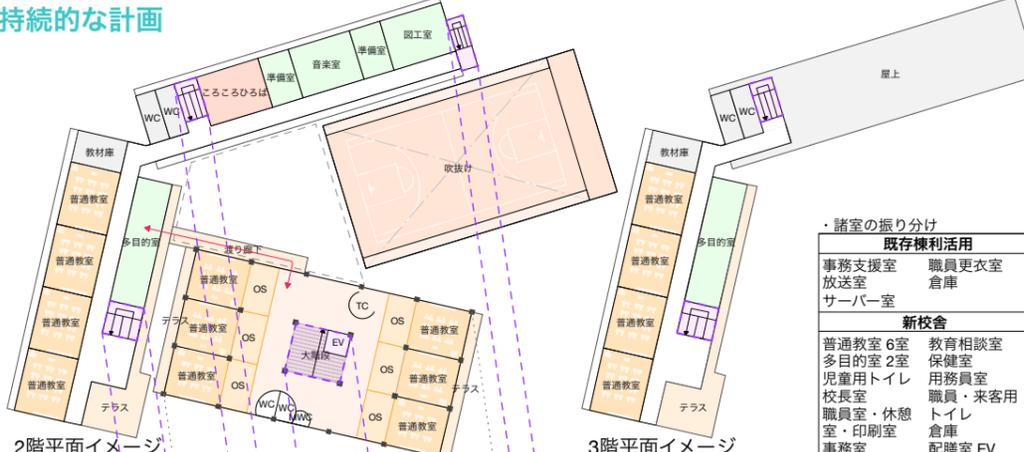
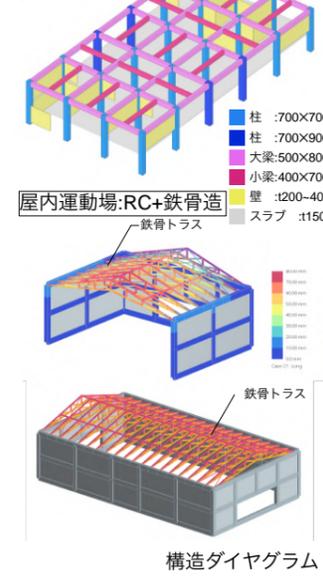
新校舎をフットプリントが大きい2階建の建築とすることで、既存校舎や各ひろばとの回遊性を高めます。屋内外、大中小、様々な質の違う居場所が連続し使いたくなる学校です。



7 構造計画

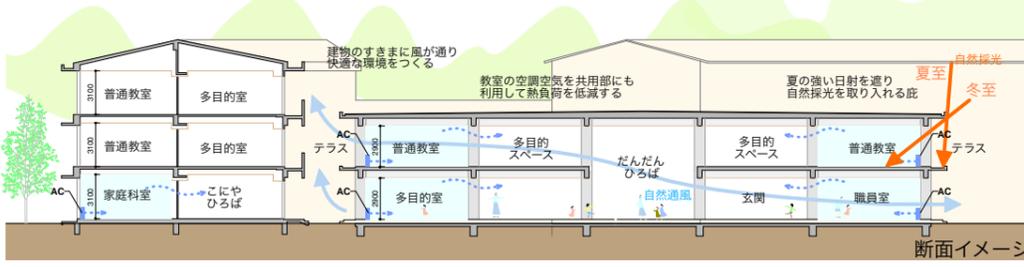
新築校舎は耐震性、安全性に優れた鉄筋コンクリート造を採用し、耐震壁をバランスよく配置する計画とします。鹿児島県内の火山灰であるシラスを原料とするシラスコンクリートを採用し、二酸化炭素の排出量を抑えます。また、屋内運動場は壁面には強固な鉄筋コンクリート造とし、屋根は、軽量で合理的にスパン可能な鉄骨トラス構造を採用します。

新校舎:RC造  
柱スパン:8Mx7M



8 瀬戸内町の気候風土を生かすづくり

強い日射を抑制し適切に教室内に太陽の光を入れます。自然採光と自然通風を積極的に取り込むことで機械設備の負担・環境負荷を低減します。人にも地球にも優しい計画を行います。



9 永く使い続けられるためのづくり

竣工後も手入れがしやすく、親しみを感じてもらえるように地場産材を積極的に活用します。仕上面やスライディングウォール、家具など様々な採用することで持続的な計画とします。

1人1人が独自に発見・創造し、学び合うことができるための居場所づくり

多様な活動を促し、のびのびと過ごせる優しい空間

10 柔らかい学びの場

多目的に対応できる柔軟な場。床や壁仕上には県産の木材を用い、衝撃を吸収し温もりがあり触りたくなる優しい空間です。

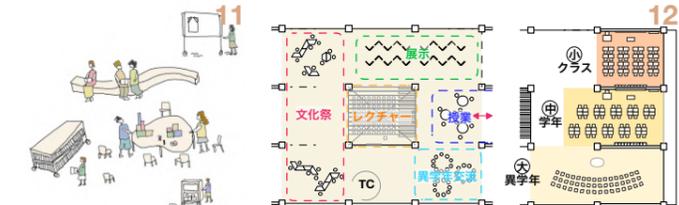


11 想像力をきたえる、  
親しみやすい家具

親しみがあり、軽やかで柔らかく簡単に動かせる木材の家具をつくります。子どもたちが自ら動かし学びに合った居場所づくりを行うことができます。

12 大中小様々な集まりに対応するひろま

普通教室は35人学級の時、1.6m<sup>2</sup>/人になる十分な広さを確保。大階段前にゆったりとした廊下を確保し、廊下に連続する多目的スペースによって様々な活動が展開可能です。2教室分の集まりや、大階段を中心とした9スパン分の集まりなど、短期的な教室増にも対応しやすく複数学年による学習や行事を行いやすい計画です。



県産材でつくるモバイル家具

様々な集まりに対応できる可変性の高い空間

13 児童と先生が学び合いやすくなる仕掛け

先生方が児童を見守ることができる居場所(TC)をひろまひろばに設けます。担当学級をこえ多世代にわたるコミュニケーションのきっかけとなり緊急時にも安心な関係づくりとなります。



14 先生方が気持ちよく働ける場所づくり

管理諸室を1階にまとめることで動線効率をよくします。職員室や事務室などの諸室間をオープンなつくりとし随所にラウンジをつくることで、円滑なコミュニケーションを図り働きやすく快適な職場環境を計画します。

